

Leçon 18 提出日： 月 日 氏名

 **Point** では、赤字・緑字の部分にマーカーをひいて、ポイントを確認しましょう。

 **Check** のところは、赤字・緑字の部分を書き込みましょう。

Leçon 18 のメニュー

1. 接続法現在

【自律学習コーナー】

1. 接続法現在（つづき）

2. 接続法過去

1. 接続法現在

今まで勉強してきたいろいろな動詞の活用形は、「直説法」と「命令法」の活用でした。この課ではあらたに「接続法」の形と用法をマスターすることにしましょう。まず接続法はどこで使うのでしょうか？

 **Point** 接続法は、従属節内（que ～）で使うのです。

Tu **es** avec moi.

きみは私といっしょにいる。

Je suis heureux que tu **sois** avec moi.

きみがいっしょにいてくれると私はうれしい。

接続法を使うのは従属節内なのですが、従属節内ならいつでも接続法を使うというわけではありません。

 **Point** 従属節内で直説法と接続法のどちらを使うかは、従属節がどのような表現によって導かれているかによって決められるのです。

Je suis heureux que tu **sois** avec moi.

きみがいっしょにいてくれると私はうれしい。

J'espère que tu **viens** avec moi.
 きみがいっしょに来てくれるといいなあ。

■接続法の作り方 (1) 原則

はじめに接続法の活用について見てみましょう。接続法の活用形はどのようにして作るのでしょうか？活用語尾と語幹にわけて見ていきます。まずは活用語尾です。

 Check 接続法の活用語尾

接続法の活用語尾は、

danser の接続法現在

je dans	nous dans
tu dans	vous dans
il/elle dans	ils/elles dans

接続法現在の活用語尾は、実は ...と同じです。

 Check 接続法の活用語尾

1. je, tu, il/elle, ils/elles の活用語尾 (-e, -es, -e, -ent) ;

の活用語尾と同じ

2. nous, vous の活用語尾 (-ions, -iez) ;

の活用語尾と同じ

danser の直説法現在

je danse	nous dansons
tu danses	vous dansez
il/elle danse	ils/elles dansent

danser の直説法半過去

je dansais	nous dansions
tu dansais	vous dansiez
il/elle dansait	ils/elles dansaient

確認練習 : L18-1-1 (Exercice 1)

確認練習 : L18-1-2

接続法の活用語尾はもう大丈夫ですね。今度は語幹について見ていきましょう。



接続法現在形の語幹は、直説法現在 3 人称複数 (ils/elles) の語幹と同じになります。



finir の接続法現在

je	e	nous	ions
tu	es	vous	iez
il/elle	e	ils/elles	ent

finir の直説法現在

je	finis	nous	finissons
tu	finis	vous	finissez
il/elle	finit	ils/elles	finissent

確認練習 : L18-1-3

確認練習 : L18-1-4

今度は prendre の接続法現在の活用形の語幹を見ていきましょう。



prendre の nous と vous の接続法現在形の語幹は、直説法現在 1・2 人称複数 (nous/vous) の語幹と同じになります。



prendre の接続法現在

je	e	nous	ions
tu	es	vous	iez
il/elle	e	ils/elles	ent

prendre の直説法現在

je prends	nous prenons
tu prends	vous prenez
il/elle prend	ils/elles prennent

接続法現在の nous と vous の活用形を見て何か気づきましたか？



nous と vous の接続法現在形は、直説法半過去活用形と同じになります。

prendre の接続法現在

je prenne	nous prenions
tu prennes	vous preniez
il/elle prenne	ils/elles prennent

je prenais	nous prenions
tu prenais	vous preniez
il/elle prenait	ils/elles prenaient

結局、接続法現在の活用形についてまとめると次のようになります。



接続法の作り方 まとめ

1. **je, tu, il/elle, ils/elles** の活用形 ;
2. **nous, vous** の活用形 ;

danser の接続法現在

je danse	nous dansions
tu dances	vous dansiez
il/elle danse	ils/elles dansent

finir の接続法現在

je finisse	nous finissions
tu finisses	vous finissiez
il/elle finisse	ils/elles finissent

prendre の接続法現在

je prenne	nous prenions
tu prennes	vous preniez
il/elle prenne	ils/elles prennent

確認練習 : L18-1-5 (Exercice 2)

確認練習 : L18-1-6

確認練習 : L18-1-7

確認練習 : L18-1-8

■用法

ここからは接続法の用法について見ていきます。その前に次のことをもう一度確認しておきましょう。



- 1) 接続法は,
- 2) 直説法と接続法のどちらを使うかは,

Je suis heureux que tu sois avec moi.

きみがいっしょにいてくれると私はうれしい。

J'espère que tu viens avec moi.

きみがいっしょに来てくれるといいなあ。

どの表現の後で接続法を使うかは大きく2つに分けることができます。



1) 主節の表現（動詞、形容詞など）による場合

主節が

Je suis heureux que tu avec moi.

きみがいっしょにいてくれると私はうれしい。



2) 従属節を導く表現（接続詞句，前置詞句）による場合

従属節を導く接続詞句や前置詞句が，

Il a parlé lentement **pour** qu'elle .

彼は彼女が理解できるようにゆっくりと話した。

それでは，1) の「主節が願望，必要性，可能性，疑惑，心配，感情をあらわすとき」からマスターしていきましょう。



接続法をとる「願望（命令）」をあらわす主な表現

que ...	「～したい」
que ...	「～を願う」
que ...	「～を望む」
que...	「～が好き，してもらいたい」
que...	「～を求める」
que ...	「～を強く求める」
que ...	「～するように言う」

Je veux que tu deviennes ma femme (mon associé).

きみが僕の妻（私の共同経営者）になってくれたらなあ。

Luc demande qu'on le comprenne (bien) (avant le juger).

リュックは私たちが（彼のことを判断する前に）彼の言うことをよく理解することを求めている。

確認練習：L18-1-9 (Exercice 3)

■もっと知りたい！ **Quelques infos en plus!**

que 節が使えない場合

従属節内で接続法をとる動詞でも、主節の主語と従属節の主語が同じときには、ふつうは不定詞構文を用います。

私は皿洗いをしたいのですが。

- Je voudrais faire la vaisselle.
- × **Je** voudrais que **je** fasse la vaisselle.

主節の主語と従属節の主語が異なる場合は、もちろん que 節を使います。

Je voudrais que tu fasse la vaisselle.

私はきみに皿洗いをしてもらいたいののですが。

1) の「主節が願望、必要性、可能性、疑惑、心配、感情をあらわすとき」の続きです。

 **Check** 接続法をとる「必要性」をあらわす主な表現

que ...	「～しなければならない」
que ...	「～する必要がある」
que ...	「～するほうがいい」

Maintenant **il faut** vraiment **que** j'y aille.
今、私は本当に（そこへ）行かなければなりません。

(II) **vaut mieux** **qu'**on se quitte.
私たちは別れたほうがいい。

次は、可能性をあらわすときについてです。

 **Check** 接続法をとる「可能性」をあらわす主な表現

que ...	「～かもしれない、ありえる」
que ...	「～はできない、ありえない」
que ...	「～はまれである」
que ...	「～かもしれない、ありえる」

que ... 「～することがある」

que ... 「～あるらしい」

Il est possible qu'il pleuve demain.

明日は雨が降るかもしれない。

Il arrive qu'il neige en octobre, mais c'est assez rare.

10月に雪が降ることもあるが、かなりまれだ。

■先生、質問！

非人称表現に導かれる節のなかではいつも接続法なのですか？

そんなことはありません。接続法をとる非人称表現もあれば、そうでないものもあります。非人称でも接続法をとるのは、「願望、必要性、可能性、疑惑、心配、感情」をあらわす表現に限られます。そのような意味を持っていない非人称表現では、接続法ではなく直説法を使います。

Il est évident qu'il a tort.

彼が間違っているのは明らかだ。

しかし、否定的な意味になると接続法をとります。

Il n'est pas évident qu'il ait tort.

彼が間違っているかどうかは明らかではない。

il est probable que ... 「～はありそうだ」は直説法をとるから要注意！

Il est probable qu'il est malade.

たぶん彼は病気なのだろう。

■用法

1) の「主節が願望、必要性、可能性、疑惑、心配、感情をあらわすとき」の続きです。



接続法をとる「疑惑」をあらわす主な表現

que ... 「～を疑っている」

que ... 「～は疑わしい」

que ...

「～は確かではない

Elle **doute que** ce médicament soit efficace.

彼女はこの薬が効くかどうかを疑っている。

Il **est douteux qu'**il fasse beau demain.

明日晴れるかどうかは疑わしい。

Ce n'est pas sûr qu'elle sache la vérité.

彼女が真実を知っているかどうかは確かではない。

こんどは、心配をあらわすときについてです。



接続法をとる「心配」をあらわす主な表現

que ...

「～を心配する」

que ...

「～を心配する」

J'ai peur qu'il (ne) pleuve.

雨が降るのではないかと心配だ。

Je crains qu'il (ne) soit malade.

彼が病気ではないかと心配だ。

■先生、質問！

Je crains qu'il ne soit malade. の ne は何ですか？

この ne は「虚辞の ne」と言われるもので、否定の意味はありません。虚辞の ne は、この例のように主節が「心配」をあらわす動詞のときに従属節内で用いられます。日本語でも同じような言い方（「～ではないか」）をするから、なぜ虚辞の ne が用いられるかはなんとなく理解できますね。

Je crains qu'il ne soit malade.

彼が病気ではないかと心配だ。

J'ai peur qu'il ne pleuve.

雨が降るのではないかと心配だ。

しかし、話し言葉ではしばしば省略されます。この虚辞の *ne* は、この他に *avant que* と *à moins que* の後でも用いられますが、これについてはまた後で説明します。

■用法

最後に感情をあらわすときについて見ていきましょう。



接続法をとる「感情」をあらわす主な表現

que ...	「～は残念である」
que ...	「～は残念である」
que ...	「～するのは悲しい」
que ...	「～とは驚きだ」
que ...	「～に満足している」
que ...	「～してうれしい」

C'est dommage que tu me quittes.

きみが私と別れてしまうのは残念です。

Je serais content que tu viennes.

きみが来てくれたらうれしいのですが。

■もっと知りたい！ Quelques infos en plus!

考えをあらわす動詞と接続法

penser, *croire* など考えをあらわす動詞が否定や疑問におかれた場合は、ふつう接続法を用います。

Je pense que tu as raison.

私はあなたの言っていることが正しいと思います。

→ **Je ne pense pas que** tu aies raison.

私はあなたの言っていることが正しいとは思わない。

Vous croyez qu'il est amoureux de moi.

あなたは、彼が私に恋していると思っている。

→ **Croyez-vous qu'il soit** amoureux de moi?

あなたは、彼が私に恋していると思いますか？

ここからは、2) の「従属節を導く接続詞句や前置詞句が、目的、譲歩、条件などをあらわすとき」について見ていきます。まずは目的をあらわすときについてです。

■用法

 **Check** 接続法をとる「目的」をあらわす主な表現

Il a parlé lentement **pour qu'**elle comprenne.
彼は彼女が理解できるようにゆっくりと話した。

■先生、質問！

pour que と **afin que** はどう違うのですか？

日常のフランス語では **pour que** を使うのですが、それに対して **afin que** は改まった表現で、主に書き言葉で使われるのです。

Son père lui a tout raconté **afin qu'**elle sache la vérité.
彼女の父親は、彼女が真実を知るようにと全てを話した。

次は、譲歩をあらわすときについてです。

 **Check** 接続法をとる「譲歩」をあらわす主な表現

que ...	「～であるにもかかわらず」
...	「～であるにもかかわらず」
que ...	「～であるにもかかわらず」
que ...	「何を～しようとも」

Elle est partie à la montagne **quoiqu'**il fasse mauvais.
彼女は天気が悪いにもかかわらず山に出かけた。

■先生、質問！

bien que, quoique, malgré que はどう違うのですか？

「～にもかかわらず」と譲歩をあらわしたいとき、**quoique** は普通のニュートラルな表現ですが、**malgré que** はくだけた口語的な表現で話し言葉で用いられ、**bien que** は改まった文語的な表現で書き言葉で用いられます。

quoique と **quoi que** はどう違うのですか？

quoique は「～にもかかわらず」という意味ですが、**quoi que** は「何を～しようとも」という意味で、2つの表現の意味は同じではありません。次の例でもう一度意味の違いを確認してください。

Il continue à fumer **quoique** le médecin lui ait dit d'arrêter.

医師が止めるように言ったにもかかわらず、彼はタバコを吸い続けている。

Il continue à fumer **quoi que** le médecin lui ait dit.

医師が何と言っても、彼はタバコを吸い続けている。

■用法

最後に条件、時間的先行をあらわすときについて見ていきましょう。



接続法をとる「条件、時間的先行」をあらわす主な表現

que ...	「～でない限り」
que ...	「～することなしに」
que ...	「～を恐れて」
que ...	「～する前に」
que ...	「～するまで」

La fête aura lieu **à moins qu'**il (ne) pleuve.

雨が降らない限り、祭りは行われるでしょう。

Rentrons **avant qu'**il (ne) pleuve.

雨が降る前に戻りましょう。

Le temps passe **sans que** je ne m'en aperçoive.

私が気がつかないうちに時は過ぎていく。

■先生、質問！

Rentrons avant qu'il ne pleuve. の ne は何ですか？

この ne は「虚辞の ne」と言われるもので、否定の意味はありません。虚辞の ne は、この例のように、à moins que と avant que の後で用いられます。しかし、話し言葉ではしばしば省略されます。この虚辞の ne は、craindre que と avoir peur que の後でも用いられますが、これについてはすでに説明しましたね。

de peur que ... 「～を恐れて」の que 節内でも虚辞の ne がよく用いられるんだよ。

J'ai pris un parapluie de peur qu'il (ne) pleuve.

雨が降るといけないので、傘をもっていった。

確認練習：L18-1-10 (Exercice 4)

■もっと知りたい！ Quelques infos en plus!

その他の接続法の用法

関係節内でも次のような場合は、接続法が用いられます。

1) 先行詞の存在が不確実な場合

J'aimerais bien trouver un robot qui me permette de vivre sans travailler.

私は、私が働かないで生活できるようなロボットを見つけたい。

2) 先行詞が否定されている場合

Il n'y a rien sur quoi je puisse compter.

私が頼りにできるものはなにもない。

3) 先行詞に最上級またはそれに相当する表現がついている場合

C'est la femme la plus intelligente que j'aie vue.

彼女は私がこれまで会ったなかでもっとも頭のいい女性です。

C'est la seule personne qui parle cette langue.

彼はこのことばを話せる唯一の人です。

1. 接続法現在（つづき）

接続法の作り方(2)例外

 **Check** 接続法の活用の例外

- 1) nous, vous 以外は特別な語幹になるもの:
- 2) 全人称特別な語幹になるもの:
- 3) 語幹, 活用語尾ともに例外的なもの:

それぞれの活用形の作り方を順に見ていきましょう。まずは, 1) nous, vous 以外は特別な語幹になるものです。

 **Check** aller の接続法現在

j' e	nous ions
tu es	vous iez
il/elle e	ils/elles ent

 **Check** vouloir の接続法現在

je e	nous ions
tu es	vous iez
il/elle e	ils/elles ent

確認練習 : L18-1-1 (自律学習)

確認練習 : L18-1-2 (自律学習)

次は, 2) 全人称特別な語幹になるものについてです。

 **faire の接続法現在**

je	e	nous	ions
tu	es	vous	iez
il/elle	e	ils/elles	ent

 **savoir の接続法現在**

je	e	nous	ions
tu	es	vous	iez
il/elle	e	ils/elles	ent

 **pouvoir の接続法現在**

je	e	nous	ions
tu	es	vous	iez
il/elle	e	ils/elles	ent

確認練習 : L18-1-3 (自律学習)

確認練習 : L18-1-4 (自律学習)

確認練習 : L18-1-5 (自律学習)

最後は, 3) 語幹, 活用語尾ともに例外的なものについてです。

 **avoir の接続法現在**

j'	nous
tu	vous
il/elle	ils/elles



être の接続法現在

je	nous
tu	vous
il/elle	ils/elles

2. 接続法過去



主節が現在・未来のとき、従属節である事柄を「未完了の事柄」として表現したいときには接続法現在を使います。それに対して、「完了した事柄」として表現したいときには接続法過去を使うのです。

接続法過去は次のようにして作ります。



接続法過去

接続法過去＝

J'ai peur que vous (ne) m' _____ à jamais.

私は、あなたが私のことを永遠に忘れ去ってしまうのではないかと心配です。

Je suis heureuse que tu _____ hier.

私は、昨日きみが来てくれてうれしい。

C'est la meilleure pièce que j' _____ jamais !

それは私がかつて見たなかで最も良い部屋だ。

L'été 2003 a été le plus chaud que l'on _____ ces cinquante dernières années.

2003年の夏は、この50年間に経験したなかで最も暑かった。



日常語では、主節が過去のときも、従属節の「未完了の事柄」は接続法現在で、「完了した事柄」は接続法過去であらわすんだよ。

Il fallait une actrice qui puisse jouer ça.

それを演じることのできる女優が必要だった。

Je craignais qu'il ne soit tombé entre les mains de terroriste.

私は、彼がテロリストの手中に落ちてしまうのではないかと心配だった。

Exercice Synthétique

問題の指示は、教科書を見てね。

1)



2)

